

**気仙沼 新市立病院が着工 17年11月開院 救急医療充実へ**

「老朽化に伴い気仙沼市が同市赤岩杉ノ沢に移転新築する市立病院の起工式が9月9日、現地であった。2017年4月完成、11月の開院を目指し、救急医療と災害医療を柱に据える。

総事業費は245億8,500万円。昨年秋時点で約210億円を見込んだが、人件費や建築費の高騰からことし2月の入札が不調となり、8月の再入札で大成建設などの共同企業体（JV）が落札した。」（「河北新報」9月10日付け）

**岩手県は県立病院、宮城県は市立病院**

岩手県と宮城県一復興への姿勢や行政のあり方では、岩手県の方が宮城県よりも優っています。

岩手県は県内の各自治体に県立病院や県立診療所があります。医療については、県が責任を負っています。各病院の医師や看護師は、県の職員です。

宮城県には県立病院はありません。各自治体に市立病院（市民病院）があります。医療の責任は、各自治体です。医師や看護師は各病院が採用します。仙台には、東北大学医学部付属病院や厚生年金病院等の大病院が集中しています。また、個人病院も多いです。一方、気仙沼市には、被災後個人病院が減りました。その結果、患者はどうしても市立病院に集中します。

**気仙沼市立病院 開業医減り 混雑常態化**

「平日午前9時の気仙沼市立病院。228台収容の駐車場は、瞬く間に埋まった。病院の周辺に乗用車が列を成す。夜明け前から病院の正面玄関前に並ぶ患者もいるという。

気仙沼医療圏の病院や診療所は、震災後の再開率が73.2%で頭打ちの状態が続く。開業医が減った分、患者は基幹病院の市立病院に押し寄せた。

「市立病院の医師は一定程度確保できている」と説明する菅原茂気仙沼市長だが、すし詰め待ちスペースとのギャップは大きい。」（「河北新報」8月29日付け）

**市立病院には 元気で体力が無ければ通院できない 病人では通院は無理**

私は、8月に軽い尿管結石になりました。1日目は、内科でMRI検査等をして、尿管結石と推定されました（診察は待ち時間を含めて4時間）、2日目は、泌尿器科でレントゲン検査をして、尿管結石と診断されました（同3時間）、3日目は、泌尿器科でレントゲン検査をして、結石が動いているので、様子を見ることになりました。（同2時間）です。

市民病院では、医師の全てが市の雇用職員ではありません。東北大学からの派遣の医師も多いです。私の3日間の医師は、全て違った先生でした。

検査（20分）、診察（10分）を受けるために、待ち時間を含めると半日かかります。私は実感しました。市立病院には、元気で体力が無ければ通院できません。病人では通院は無理です。

【現在の気仙沼市立病院—工事費 35 億円を増額して、新市立病院の建設が着工）】



【気仙沼 1 の人口密度—市立病院の待合ロビー）】

